

2025年度  
(2024年10月～2025年9月)

# 環境経営レポート

2025年12月12日  
有限会社 遠藤産業

# 環境経営レポート目次

1.環境経営方針	P.1
2.組織の概要	P.2, P.3
3.認証・登録の対象範囲	P.3
4.環境経営目標とその実績	P.4
5.環境経営目標、環境経営計画及び環境経営計画及びその取組結果とその評価並びに 次年度の取組内容	P.5
6.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P.6
7.代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果	P.6

# 1.環境経営方針

## 経営理念

有限会社 遠藤産業は、事業の活動を通じて、省エネルギーの推進による二酸化炭素排出量削減等により、自然環境と調和した循環型社会の実現に向け、環境経営の継続的改善を図っていきます。

## 環境方針

- 1.当社は、事業実態を踏まえ重点的に環境への負荷削減に取り組みます。
  - (1) 二酸化炭素排出量削減のため、省電力、収集・運搬車両の燃料削減に努めます。
  - (2) 廃棄物排出量の削減に努め、廃棄物回収業務を積極的に推進して、資源の有効利用に貢献します。
  - (3) 水使用量の削減に努めます。
  - (4) グリーン購入の推進に努めます。
  - (5) 本業である廃棄物収集運搬業務の効率化を図り、経営の安定化を推進します。
- 2.地域社会における環境保全活動を積極的に実施し、地域の環境保全に貢献します。
- 3.環境関連法令並びに同意したその他の要求事項を遵守します。

作成日：2008年9月20日  
改定日：2022年10月9日  
有限会社 遠藤産業  
代表取締役 遠藤平八郎

## 2.組織の概要

- 1)事業所名 有限会社 遠藤産業  
代表者氏名 代表取締役 遠藤 平八郎
- 2)所在地 本社 :〒811-1223 福岡県那珂川市大字上梶原 927-1  
事業場 :〒811-1223 福岡県那珂川市大字上梶原 1008-83
- 3)環境管理責任者 取締役 遠藤 幸之助  
担当者氏名 取締役 遠藤 幸之助  
連絡先 TEL / 092-953-1877 FAX / 092-953-1877  
Eメールアドレス endou-sangyo@bg7.so-net.ne.jp

4)事業内容 産業廃棄物の収集・運搬

5)事業の規模 ・ 法人設立年月日 昭和57年3月26日

・ 資本金 300万円

・ 売上高

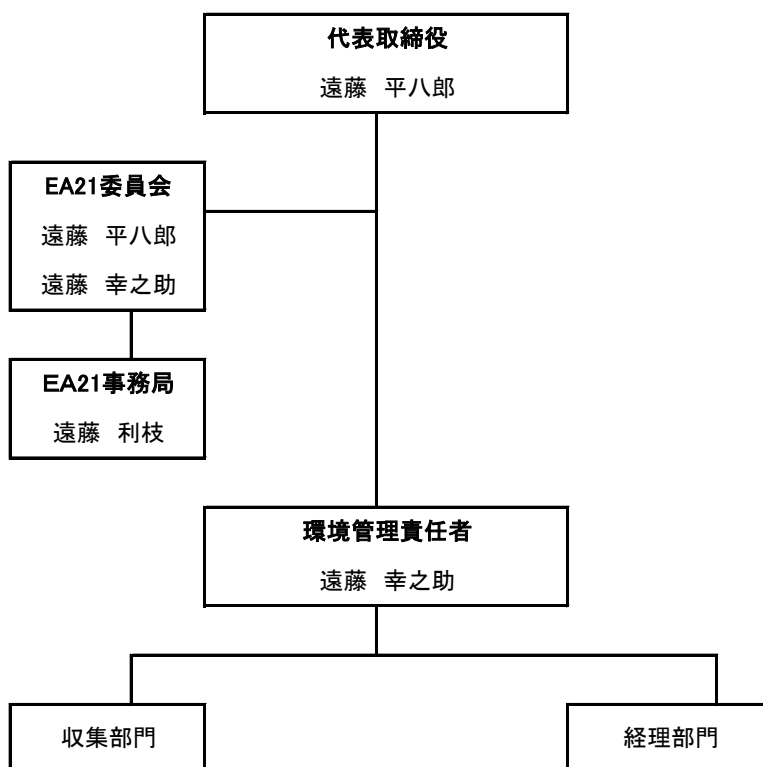
項目	2023年度	2024年度	2025年度
売上高(百万円)	68.7	71.5	85.0
収集運搬量(t)	1,369.5	1,526.6	1,506.9

・ 従業員数 5人

・ 事業所の延べ床面積 497.9㎡

・ 事業年度 10月～翌年9月

・ 組織図



6) 許可の内容

産業廃棄物収集運搬業				許可項目											
都道府県及び政令都市	積保	替管	許可の有効年月日	許可番号	木くず	廃プラスチック類	廃油	紙くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず類	がれき類	ばいじん
					有	無									
福岡県		●	令和12年9月11日	第04000032974号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

事業計画の概要 : 許可を受けた産業廃棄物(10種類)について事業者から運搬の委託を受けた場合には廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく契約を締結し、排出業者からマニフェストの交付を受け、指定された許可処分業者の事業場に運搬する。

7) 施設等の状況(運搬車両の種類と台数)

4tパッカー車	1台
2t平ボデー	2台
2tユニック	1台
1t平ボデー	1台
リフト	1台

8) 処理実績

産業廃棄物	処理量(t)
木くず	64.16
がれき類	0.00
金属くず	49.70
雑品 (レジスター・プリンター等)	11.83
廃プラスチック類	1,288.32
ガラス・コンクリート ・陶磁器くず	63.31
合計	1,477.32

再生資源	処理量(t)
紙類	17.19
古布	0.00
非鉄金属類	11.72
スチール缶	0.56
アルミ缶	0.11
合計	29.58

産業廃棄物の収集運搬量	:	1,477.32t
再生資源量	:	29.58t
合計		1,506.90t

### 3. 認証・登録の対象範囲(全組織・全活動)

事業活動 産業廃棄物収集運搬  
 対象事業所 本社、事業場

## 4. 環境経営目標とその実績

当年(2025年度)の目標と実績及び中長期の目標は、以下の通りである。

環境目標	単位	基準値	単年度目標	中長期目標			実績	達成率(%)	達成状況		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度					
		実績	目標(0.1%)削減	目標(0.2%)削減	目標(0.3%)削減	目標(0.4%)削減	2025年度	2025年度	2025年度		
1	二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub> /t	23.86	23.84以下	23.81以下	23.79以下	23.76以下	27.97	87%	×
			kg-CO <sub>2</sub> (総量)	36,427	36,390.6以下	36,354.4以下	36,318以下	36,281以下	(41,768.85)		
		電気使用量の削減	kWh	1,348	1,347以下	1,345以下	1,344以下	1,343以下	1,236	109%	○
		軽油使用量の削減	L/t	6.77	6.763以下	6.756以下	6.749以下	6.743以下	7.1	95.0%	△
		ガソリン使用量の削減	L/t	2.61	2.608以下	2.603以下	2.595以下	2.585以下	3.93	66.0%	×
		(総量 L)	3,985	3,981	3,977	3,973	3,969	(5,924.15)			
2	廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減	kg	79.09	79.01	78.93以下	78.85以下	78.77以下	75.47	105.0%	○
3	水使用量の削減		m <sup>3</sup>	98.0	97.9以下	97.8以下	97.7以下	97.6以下	99.0	99.0%	△
4	グリーン購入に配慮する	取組	グリーン購入に配慮する	グリーン購入に配慮する	グリーン購入に配慮する	グリーン購入に配慮する	グリーン購入に配慮する	グリーン購入に配慮する	配慮している	配慮している	○
5	地域貢献活動の推進	回/年	2	2回以上	2回以上	2回以上	2回以上	2回以上	2	100%	○
6	収集運搬量の拡大		-	-	収集運搬量拡大の取組を行う			取組している	-	○	
7	業務効率化と事業取組		-	-	業務のIT化、優良産廃事業者への取組			取組している	-	○	
8	収集運搬量		t	1,526.7					1,506.9		

### 備考

- 1.目標は前年度実績をベースとして削減率0.1%以下。
- 2.二酸化炭素排出量の削減は、原単位(収集運搬量(トン)当たりの負荷量)で示します。
- 3.二酸化炭素排出量を把握する際に用いた購入電力の排出係数は2019年度(九電の調整後排出係数)(0.370kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を用いました。
- 4.達成状況は、原単位目標と比較して評価しました。
- 5.達成評価は100%以上は○、90%以上~100%未満は△、90%以下は×判定とする。
- 6.2023年度より一般廃棄物の削減目標は紙使用量から一般廃棄物の量に変更する。  
又、課題とチャンスをつまえた目標を新たに設定した。
- 7.廃品回収リサイクル事業を縮小したため、2023年度の収集運搬量で古紙回収量が減少し、結果的に回収量が減少した。  
収集運搬量でエネルギー関連の原単位を設定したため結果的にエネルギー関連の目標が達成できなかった。  
尚、収集運搬量は、収集運搬量に有価物として回収した量も加算して算出しています。
8. 廃棄物排出量削減について 一般廃棄物は、2023年度より従来の紙使用量削減から一般廃棄物削減に変更  
産業廃棄物は、当社では排出していないので目標の設定はしていません。
- 9.地域貢献活動は年2回参加することができた。

## 5. 環境経営目標、環境経営計画及び

### その取組結果とその評価並びに次年度の取組内容

取組計画及び次年度の取組内容	実施状況	評価
<b>電気使用量の削減</b>		
① エアコン設定温度を夏場27℃、冬場21℃に 決め、実行する	○	節電に努めた為、電気使用量の削減はほぼ達成できている。次年度も①、②、③を継続する。
② 照明器具をLEDに交換(本社である自宅の対応)	○	
③ こまめに電気、コピー機の電源を消す	○	
<b>軽油・ガソリン使用量の削減</b>		
① 不要なアイドリングをしない	△	自家用車1台増加の為ガソリン使用量が増えた。使用量をわかる範囲で把握し、環境経営目標の見直しを検討する。
② タイヤの空気圧をこまめにチェックする	△	
③ 急発進・急加速をしない	○	
④ エンジンブレーキを積極的に使う	○	
<b>一般廃棄物の削減</b>		
① コピーミスを減らす	○	必要部数の印刷を徹底しコピーミスをなくすよう心掛け、使用量を削減できた。
② コピーミソ用紙の裏をメモ用紙として使用する	○	
③ 選別してリサイクルする	○	次年度も継続する。
<b>グリーン購入の推進</b>		
① 事務等品はできるだけグリーン製品を購入する	○	グリーン製品を購入、使用できた。
<b>収集運搬量の拡大</b>		
① 新規事業所を増やす。	○	新規事業所は増加しているが収集運搬量の増加には寄与が不十分だった。
<b>業務効率化と事業取組</b>		
① 業務のIT化、優良産廃事業者の取組	○	電子情報保存法に対応、インボイス制度登録優良産廃事業者を目指して準備をしている。
<b>地域貢献活動の推進</b>		
① 地域ボランティアに積極的に参加する	○	年2回、地域清掃に参加することができた。次年度も積極的に参加できるようにする。

実施状況の判定 : ○:よくできた、△:あまりできなかった、×:全くできなかった

※環境経営目標の次年度目標はP.4の環境経営目標に記載している。

## 6.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

### 並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動において法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りである。

適用される法規等	適用される事項
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物の収集運搬に係る法律

2025年10月12日に上記の環境関連法規等の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

## 7.代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果

### 1.取組状況の評価

環境負荷軽減活動に積極的に取組んできた。この間の特筆すべき事項は下記の通りである。

- (1) エコアクション21委員会の定期開催(1回/4ヶ月)による従業員の意識向上、及び環境関連事項の周知徹底。
- (2) 二酸化炭素削減のため、電力使用量削減、収集・運搬車両のエコドライブの徹底。
- (3) 事業所の水使用量の削減。
- (4) 廃棄物回収業務を積極的に推進して資源の有効利用に貢献。
- (5) 地域社会における環境保全活動を積極的に実施し、地域の環境保全に貢献。

### 2.今後の課題

- (1) 軽油、ガソリン使用量の更なる削減。  
1日の現場の数が増えた為、軽油使用量が増えた。  
事業拡大の為の営業回り、顧客増加の為ガソリン使用量が増加した。  
尚、自家用車1台増加の為、ガソリン使用量が増加。自家用車ガソリン使用量について見直しを行う。
- (2) 環境経営方針から実施体制の確立を終え、年度計画を立案して環境保全活動への地盤づくりはできた。  
次年度の環境経営目標は前年度の継続に加えて課題とチャンスを踏まえた内容の見直しを行う。  
尚、事業活動に伴う、燃費などの対応が必要になり、環境経営目標を再度設定した。
- (3) 環境経営計画の手段については、従業員からアイデアを募集するシステムを検討する。
- (4) 従業員全体に環境保全活動の重要性が浸透してきた。更に一人ひとりの力を出せるような仕組みづくりを構築していく。
- (5) 業務のIT化、優良産廃事業者の取組を継続して行う。

以上